



SATOYAMA INITIATIVE

生物多様性と人間の福利
のための社会生態学的
生産ランドスケープの推進

生物多様性の保全にとっては、原始的な自然の保護のみならず、人々が古くから持続的に利用や管理してきた農地や二次林など、人間活動の影響を受けて形成・維持されている二次的自然環境の保全も同様に重要です。これらの二次的自然環境には、多様な種がその生存のために適応・依存しており、その維持・再構築が生物多様性の維持・向上に重要な役割を果たします。しかしながら、これらの自然環境やそれが象徴する持続可能な慣行や知識は、都市化、産業化、地方の人口の急激な増減等により、世界の多くの地域で危機に瀕しています。これらの二次的自然環境を持続可能な形で保全していくために、その価値を世界で広く再認識するとともに、早急かつ効果的な対策を講じていくことが求められています。

SATOYAMAイニシアティブの提唱

この緊急な課題に取り組むため、環境省と国連大学高等研究所(UNU-IAS)はSATOYAMAイニシアティブを提唱しています。SATOYAMAイニシアティブはエコシステムアプローチ¹など既存の基本原則を踏まえ、関連する活動を世界的に推進していくものです。本イニシアティブの核となる長期目標(Vision)は「自然共生社会」の実現、すなわち人と自然の良好な関係が構築されている社会の実現です。

2010年10月の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に際しSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップを発足させ、こうした取り組みを促進させるための国際的な土台

¹ 保全及び公正な方法での持続可能な利用を促進する、土地、水、生物資源の統合管理のための戦略。COP5で採択。

(プラットフォーム)を正式に設立します。本イニシアティブは、生物多様性条約の3つの目標の達成に資することが期待されています。

長期目標：自然共生社会の実現

SATOYAMAイニシアティブの長期目標は、自然のプロセスに沿った社会経済活動(農林水産業を含む)の維持発展を通じた「自然共生社会」の実現です。生物資源を持続可能な形で利用・管理し、結果として生物多様性を適切に保全することにより、人間は様々な自然の恵みを将来にわたって安定的に享受できるようになります。そのため、SATOYAMAイニシアティブでは、「社会生態学的生産ランドスケープ²」と呼ぶ地域における、人と自然との係わり方を社会的及び科学的視点から見つめ直します。

² 当該用語は、日本里山里海評価における議論をふまえ、SATOYAMAイニシアティブが対象とする地域の呼称として使用しています。

ルワンダ西部州カバヤ：ルワンダの農民はアグロフォレストリーの仕組みで食料及び家畜飼料、緑肥、樹木を栽培している。トウモロコシは主食かつ主な換金作物であり、一緒に栽培されるネビアグラス及びハンノキの仲間は、家畜飼料や緑肥の供給だけでなく、土壌の安定を高めることにより農民の暮らしをさまざまな面で支えている。

ソロモン諸島ウェスタン州オリヴェ村：焼畑移動耕作により、畑や異なった遷移段階の森林などがモザイク状に形成されている。

三つの行動指針：より持続可能な形で土地及び自然資源の利用と管理が行われるランドスケープの維持・再構築を目指し、以下の3つの行動指針を提案しています。

- 多様な生態系のサービスと価値の確保のための知恵の結集
- 革新を促進するための伝統的知識と近代科学の融合
- 伝統的な地域の土地所有・管理形態を尊重した上での、新たな共同管理のあり方（「コモンズ」³の発展的枠組み）の探求

行動指針では、人間の福利の向上をもたらす多様な生態系のサービスと価値に関する理解と、それらのための知恵の結集が不可欠な要素の一つとなっています。また、多くの伝統的知識は科学的な実証が必ずしも十分でなく最大限の活用がされていないため、伝統的知識と近代科学の融合により、伝統的知識のさらなる有効活用について検討することも重要です。さらに、革新を促進するための伝統的な地域の土地所有・管理形態を必要に応じ尊重しつつ、従来の土地

所有者や地域住民のみならず、生態系サービスを受けている多様な主体も参加する新たな共同管理のあり方の探求も重要であると考えられます。この新たな仕組みを通じ、社会生態学的生産ランドスケープの維持や再構築を図ります。

実践的な視点：上記の行動指針に沿って、それぞれの地域において社会生態学的生産ランドスケープの維持・再構築、すなわち持続可能な自然資源の利用と管理を実践していく際には、以下の5つの生態学・社会経済学的視点が重要であると考えられます。

- 環境容量・自然復元力の範囲内での利用
- 自然資源の循環利用
- 地域の伝統・文化の価値と重要性の認識
- 多様な主体の参加と協働による自然資源と生態系サービスの持続可能で多機能な管理
- 貧困削減、食料安全保障、生計維持、地域コミュニティのエンパワーメントを含む持続可能な社会・経済への貢献

³ 国際的/グローバルコモンズを除く。

ペルー共和国クスコ県聖なる谷：ここに住むケチュア族は主に自給自足のため、多様な固有作物を小規模栽培しており、人間と自然が調和したアイリュと呼ばれるランドスケープを形成している。

対象地域

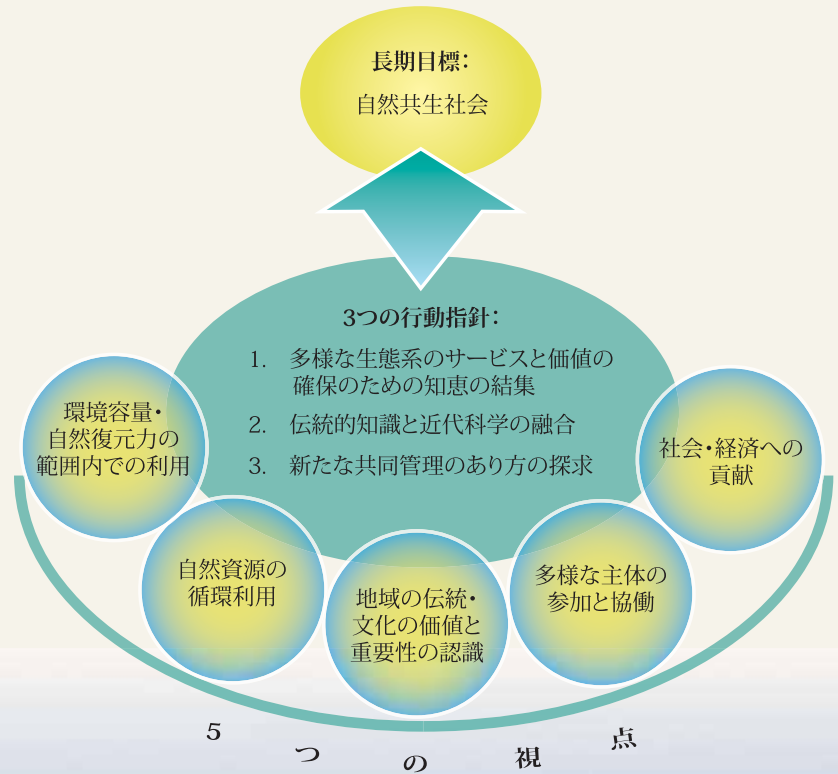
本イニシアティブが対象とする地域は、長年にわたって人間の影響を受けて形成・維持されてきた農山村及びそれに隣接する農地、森林、草地などで構成される地域(ランドスケープ)です。このような自然と人の居住の接点に形成された特有のランドスケープは世界各地に見られ、それぞれの国や地域においてそれぞれの呼び名で知られています。例えば、フィリピンのムヨン(muyong)、インドネシアやマレーシアのクブン(kebun)、韓国のマウル(maueul)、スペインのデヘサ(dehesa)、フランスのテロワール(terroir)などが挙げられます。このようなランドスケープは地域の風土・文化・社会経済などの状況に応じて異なるものの、「持続可能性」を兼ね備え得るといふ点で等しく価値があります。

イニシアティブに期待される効果

人間と自然の良好な関係を構築することによって、SATOYAMAイニシアティブは世界的なレベルで進行する生物多様性の損失を減速させることに貢献できると考えています。あわせて二次的自然環境での生物多様性の維持・向上及び持続可能な自然資源利用の促進といった二重の効果期待できます。

その推進過程において、本イニシアティブは人間の福利の向上にも役立つことでしょう。例えば、多元的な土地利用を通じた安定的な食料生産並びに所得の向上、環境にやさしいバイオマス資源の利用促進による生活環境の改善などが挙げられます。

SATOYAMAイニシアティブの 概念構造



さらに、本イニシアティブは遺伝資源の適切な利用を奨励する伝統的知識や文化の評価を通じ、遺伝資源の恩恵の享受にも貢献し得ます。

福岡県星野村:里山では、水田、菜園、茶畑、人工林、竹林や雑木林などが持続的に管理されることによって、もたらされた多様な生息地が生物多様性を向上させ、自然との調和的な関係が育まれている。

アメリカ合衆国レイジアナ州アレン郡：牧草地利用と水田利用を交互に行う伝統的な農法は、肥沃な土壌を維持し、水に生息する蚊などの害虫による病気も防いでいる。

SAToyAMAイニシアティブ国際パートナーシップ

SAToyAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)は、本資料中のパリ宣言で記述されているSAToyAMAイニシアティブが特定する活動を実施することを目指しています。パートナーシップは、生物多様性と人間の福利のために社会生態学的生産ランドスケープの促進・支援に熱心な団体、例えば、国・地方政府機関、非政府組織・市民社会団体、先住民団体・地域コミュニティ団体、学術・教育・研究機関、産業・民間センター団体、国連機関・その他の国際機関、その他の団体に開かれます。

IPSIメンバーは協力し、以下の有意義な活動を推進します。

- ケーススタディを収集、分析、整理することにより教訓を抽出し、検索可能なオンラインデータベースを通じて発信すること
- 成果をいかに政策や意思決定に活かすかなど、広く効果的な研究を奨励すること
- 援助機関と連携し、関連プロジェクトへのより多くの資源の投入及びその効果的な実施を促進すること
- 社会生態学的生産ランドスケープの維持または再構築に関わる幅広い関係者の能力を向上させること
- SAToyAMAイニシアティブの目的と活動に対する理解と情報共有の促進のため、関心を持つ組織のネットワーク化とその拡大を奨励すること

IPSIに関する詳しい情報、パートナーシップへの参加については、以下をご参照ください。

<http://satoyama-initiative.org/jp/>

ドイツ連邦共和国バイエルン州スペサルト地方：一般的なドイツの農村では、木材生産用と野生動物の生息地として管理されるブナやナラの林、放牧用牧草地や菜園が混在している。

2010年10月発行

詳しくはこちら、

環境省 生物多様性地球戦略企画室
電話：03-3581-3351

国連大学高等研究所
メール：isi@ias.unu.edu